

## は し が き

放送教育開発センターでは、平成5年度も、例年どおりテレビ7科目、ラジオ7科目の研究開発番組を制作した。本報告書は、その中から「今日の世界世界文字」と「書誌学・古文書学」のふたつのテレビ番組をとりあげ、主として制作のプロセスを、担当のディレクターおよび主任講師の立場から報告したものである。

担当ディレクターの報告文は、ふたつとも、講義内容の「テレビ化」「映像化」を目指した奮闘の記録である。

「今日の世界文字」では、文字という非テレビ的・非映像的なものを、いかに「テレビ化」「映像化」するかに挑戦した。著作権処理という時間と手間のかかる作業もやりとげねばならなかった。

「書誌学・古文書学」では、「実物」をその「質感」を損なわずにどう提示したらよいか、執拗に追求した。また、放送大学番組の生涯学習番組としての側面も重視し、素人にも興味を持ってもらうには数ある素材のうちどれを選んだらよいかといった問題にもエネルギーを注いだ。

講座番組は、優れた講師と優れたディレクターが出会ってはじめて質の高いものになることは、いうまでもない。しかし、それだけでは十分でない。両者の信頼関係、特に講師のディレクターへの信頼感がきわめて重要になる。講師が、講義内容の「テレビ化」「映像化」に関するディレクターの専門性を認めることが番組の成功につながるのである。

「今日の世界文字」主任講師の東京都立大学助教授加藤光也氏、「書誌学・古文書学」を担当された放送大学助教授杉浦克己氏の報告を拝読すると、両番組とも講師とディレクターの関係が理想的であったことが伺える。

快く報告文を執筆して下さいおふたりに、心から感謝の念を表したい。

この報告書が、4年後にふたつの番組を作り変える際の参考になることは当然として、授業番組にこれから出演される先生方にも大いに役に立つことを祈念している。

なお、ふたつの番組制作とは別に、小町ディレクターが、これまでに行った放送大学の授業番組に関する調査を洗い出し、整理する作業を行った。「番組調査の系譜」と題してまとめたので合わせて本報告書に載せた。今後同様の調査・研究を行う場合の参考になれば幸いである。

研究開発番組プロジェクト主査

佐々木 正實